

2015年6月2日

HOBIA NEWS No.317

目次

- HOBIA 平成 27 年度総会・例会開催のお知らせ
- HOBIA 全道会議開催の報告
- アグリ部会報告

● HOBIA 平成 27 年度通常総会・例会開催のお知らせ

開催日時：平成 27 年 6 月 15 (月) 総会 13:00~14:00

例会 14:15~17:05

開催場所：北海道大学 学術交流会館 小講堂 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

HOBIA 第 120 回例会

HOBIA 平成 27 年度通常総会に引き続き 北海道大学 学術交流会館にて開催

参加費： 会員無料、非会員は資料代として 千円

プログラム

14:15 ~ 14:25 理事長挨拶 北野 邦 尋

14:25 ~ 15:25 基調講演：「バイオテクノロジー 最近の進歩とその課題」

一般財団法人 バイオインダストリー協会 (JBA) 会長 大石 道夫 氏

15:25 ~ 15:45 休憩

15:45 ~ 16:55 講演：

「継続的なアクティブラーニングの機会提供」による国際的な研究・技術者の育成
北海道大学大学院 地球環境科学研究科 環境分子生物学分野准教授 山崎 健一 氏

☞合成生物学分野の「生物ロボットコンテスト世界大会 (iGEM) 参加学生発表
北海道大学医学部医学科学生 伊藤 昂哉 氏

16:55 ~ 17:05 閉会挨拶 副理事長 小砂 憲一

17:30 ~ 19:00 懇親会 (参加費 4千円)

会 場： 札幌アспенホテル (札幌市北区北 8 条西 4 丁目 TEL011-700-2111)

● 平成 27 年度バイオインダストリー振興団体全道会議 ならびに地域バイオ推進実行委員会の報告

北海道経済産業局、道庁から平成 27 年度の事業展開の説明を受け、情報交換を行った。
道内バイオ団体の平成 27 年度行事等における連携強化のための情報交換を行った。各発表後には、活
発な意見交換が行われた。

日時：平成 27 年 5 月 15 日 (金) 9:30~12:15

場所：北海道大学百年記念館 第 1 会議室 (札幌市北区北 9 条西 5 丁目)

討議内容：

(1) 経産省および道におけるバイオ産業振興政策について

北海道経済産業局

局では、今まで機能性食品と化粧品に関するバイオ産業の振興政策をとってきたが、今後は医療分野にも力を入れていく。ノーステックを通じて「ヘルスケア産業への貢献」を目指した事業を展開することにしており、2,800万円の予算を確保した。中身としては2つの事業に分かれており、数企業のコンソーシアムによる機能性や薬効の評価を行うビジネスモデルの構築と、ヘルスケア産業におけるニーズ志向の商品開発モデルの構築を目指す。

毎年10月に開催しているビジネスマッチング会に加えて、9月に開催される医療関連の学会の大会でミニ医療産業展を開催する予定である。

この他に、沖縄のバイオ産業との連携強化や地域・団体商標の取得支援、コンシェルジュ事業の展開や道内の小規模作付け作物の情報収集など計画している。

北海道

今回は、ヘルシーDoの制度変更に絞って説明をする。ヘルシーDoの制度は、機能性食品の製造企業の道内移転や育成を目指していたが、短期的にはなかなか実現ができないことである。そこで、道外に籍を置く企業が道内の製造企業に対して製造依頼をした商品にもヘルシーDoの認証を行うという制度変更した。これにより、道内製造企業の業務の拡大や技術基盤の強化を図る。

また、国の新たな制度である機能性表示食品との整合性を取りながら、ヘルシーDoの表示をできることとした。

(2) HOBIAの前年度事業の報告と今年度事業の紹介(事務局)

「平成26年度事業活動報告」を基に、前年度の事業の内容を報告した。今年度事業に関しては「活動計画」を基に、強化する事業と縮小する事業を紹介した。特に、地域団体と協力して開催する予定の地域バイオ育成推進講座についての協力を要請した。強化する事業として「技術情報広域連携事業」に新たな予算を組み、北大R&Bパーク大通サテライト(通称HiNT)の活動に準会員として参加して、道内の技術・経営支援機関や大学等との連携をより深めることになったことを説明した。

(3) 各地のバイオ団体のH27年度方針とスケジュールなど情報交換と連携打ち合わせ

旭川バイオテクノロジー推進懇話会

会を設立して今年で30周年になるが、当初の設立者である高砂酒造の小檜山氏など多くの会員が退会したことで、運営が大変難しくなっている。現在は工場を小樽市の銭函に移したアテリオバイオの三輪氏も会員であり、しばしば話し合いをしていることから、今後の展開として医療分野への対応を進めることで活動を活性化させたいと考えている。

(公財)とかち財団(北海道立十勝圏地域食品加工技術センター)

今年度の事業で4つの試験研究事業を推進するが、「海外向けの製品の賞味期限延長技術の開発」では信金の支援も受けた事業展開を考えている。このように、地域との連携を深めるとともに、国費等の外部資金の獲得による事業運営なども目指す。技術相談・指導事業では、農業大学校と連携した事業も展開する。技術交流事業ではヒューマンネット十勝と言う事業を展開しており、昨年から十勝以外の地域との交流を始めた。昨年は釧路において(公財)釧路根室圏産業技術振興センター(釧路工業技術センター)と交流し、非常に有益な情報を得ることができた。地域バイオ育成推進講座に関しては、持ち帰って他の研究員と協議する。

(公財)オホーツク地域振興機構(北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター)

ノーステックの地域イノベーション戦略支援プログラムで機器を整備したが、今後もそれらを活用した研究に取り組んでいく。オホーツク小麦フェスタを今年3月に開催したが、9月にもまた開催する予定である。イソップアグリシステムが中心となり有用酵素研究会を立ち上げたが、これの支援をしている。ハマナス財団の支援を受け、白花豆の酢の醸造に関する研究を実施する。昨年まで年1回実施していた移動食品加工技術センターを3回に増やし、地域ニーズの収集に努める。特に、オホーツク地域の北部と南部での開催を考えていて、初回は雄武町で利尻コンブの酢についての話をする予定。北見市の雇用促進事業に協力し、8月に講習会を予定している。30万円程度の規模のミニ補助事業を実施しており、大麦パンやホタテのフレークのような成果品ができてくる予定。センターのウェブページをま

もなく更新する。地域バイオ育成推進講座は、内容が時宜を得たものであったので、今後も協力していきたいと思う。

資料のみ送付いただいた機関

- ・非営利活動法人 グリーンテクノバンク、
- ・(公財) 道央産業振興財団
- ・(公財) 釧路根室圏産業技術振興センター 釧路工業技術センター
- ・(公財) 函館地域産業振興財団 道立工業技術センター

事務局から書面の送付があったことを紹介した、疑問点等については後ほど事務局でまとめることとして、メール等で連絡を受けることとした。

(4) H27年度地域バイオ育成講座のテーマならびに開催地域の決定

今回の席上では決定に至らなかったが、各機関で持ち帰って検討してもらうこととなった。不参加の機関には、事務局より改めて声がけをすることとする。

出席者 道内バイオインダストリー振興団体

- ・(公財) とかち財団圏振興機構北海道立十勝圏地域 食品加工技術センター
- ・(公財) オホーツク地域振興機構(北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター)
- ・旭川バイオテクノロジー推進懇話会
- ・特定非営利活動法人北海道バイオ産業振興協会
(4団体、順不同)

アドバイザー: 北海道経済産業局、北海道

企画運営委員会副委員長 富永一哉

● 国際オープンフォーラム報告

アグリバイオ部会 富田房男

アグリバイオ部会の活動の一環として国際オープンフォーラムを開催した。これに先立って、2月28日(土)に幹事会を開き、これからの方針の検討を行い、その結論の一つとしてこれからは、農業生産者を中心とした活動ができるように計らうこととした。その結論に従い、急遽国際オープンフォーラムを開催することとなり、以下のように開催した。フィリピンから国際アグリ事業団の上級研究員のDr. Rhodora Aldemita を招いて岩見沢と北見の2カ所で以下のプログラムで開催した。

オープンフォーラム

我が国の農業イノベーションを目指して: 北海道農業を中心に その1

日時: 3月26日 午後2時から午後5時30分

場所: 岩見沢市生涯学習センター いわなび 2F 研修室

主催: 北海道バイオ産業振興協会(アグリバイオ部会)、日本バイオテクノロジー情報センター
プログラム

開会挨拶: 北海道の農業の革新を目指して 馬場広之

基調講演: 革新的農業技術をどう導入するか?一般市民と行政への働きかけの必要性と農業生産者からの提言の重要性: ロードラ アルデミタ博士(国際アグリバイオ事業団上席研究員)

講演1: 遺伝子組換え作物が農業にもたらすもの

富田房男(北海道バイオ産業振興協会名誉理事長、日本バイオテクノロジー情報センター代表)

講演2: 北海道が必要とする革新的技術 宮井能雅

総合討論: これからの北海道農業になにが必要か?

閉会の辞: 馬場 広之

我が国の農業イノベーションを目指して: 北海道農業を中心に その2

日時: 3月27日 午後1時から午後4時30分

場所: 北見市 市民会館

主催：北海道バイオ産業振興協会（アグリバイオ部会）、日本バイオテクノロジー情報センター
プログラム

開会挨拶：北海道の農業の革新を目指して 小野寺 靖

基調講演：革新的農業技術をどう導入するか？一般市民と行政への働きかけの必要性と農業生産者からの提言の重要性：ロードラ アルデミタ博士（国際アグリバイオ事業団上席研究員）

講演1：遺伝子組換え作物が農業にもたらすもの 富田房男（北海道バイオ産業振興協会名誉理事長、日本バイオテクノロジー情報センター代表）

講演2：北海道が必要とする革新的技術 1 小野寺 靖

講演3：北海道が必要とする革新的技術 2 角田 誠二

総合討論：これからの北海道農業になにが必要か？

閉会の辞：小野寺 靖

岩見沢では、約40名、北見では、約10名の参加があった。北海道農業の問題点を農家の方々に議論いただいた。これからは、もっと積極的に新技術導入に積極的でなければ喫緊の問題は解決できない。重要な点は、生産者自体の結束が大切であるということとやはり遺伝子組換え品種の能力を北海道で実証してほしいとの結論に達した。そこで任意団体「北海道農業者の会」立ち上げ、この会から北海道立総合研究機構に以下に示す要望書を4月7日提出した。北海道立総合研究機構からは、8月までに北海道農業者の会事務局（宮井能雅氏）に回答をするとの返答を受けた。要望書は、以下に示すとおりで、これに50筆の署名と北海道が行った道民の意識アンケート（ほぼ8割の方が試験研究をすべきとしている。）の結果を添付して提出した。署名した方々の所有耕作地の面積の総計は約1800ヘクタールになる。

北海道立総合研究機構 殿

要望書

平成27年4月7日

私どもは、北海道農業の将来像を描くために、同志を募り任意団体「北海道農業者の会」を立ち上げ、学習及び相互研鑽を積んで参りました。その結果、別紙署名のための要望書にあるように、地球環境、人口問題、気象変動に対応するための農業技術革新が必要であるとの結論に達しました。技術革新の中でも生産性向上、農業生産性の向上などが必須であり、そのためには、組換え作物の導入が大きな位置を占めるとの考えに至りました。特に労働力削減、生産性の向上に大きな進歩があることを学びました。このことを実証するには、実際に栽培することが極めて重要であります。世界では、多くの国々や地域でその効果が証明され、悪い影響は、全くないことを学びました。現在北海道では、甜菜の作付け面積は減少していますが、その大きな理由が除草作業にあること、大豆の生産性が低いのは、同じく除草と生産効率にあることが上げられている。トウモロコシもサイズと同様の理由が挙げられている。

一方、先に述べた組換え品種を利用することで大きなベネフィットを上げていることが報告されている。そこで、私どもは、組換え品種、特に甜菜、大豆、トウモロコシについて相当する従来種との比較を是非とも貴機構で早急に試験していただきたく署名を添えてお願い申し上げます。どうか早急に試験をしていただきこの技術の有用性を確かめていただきたく、お願い申し上げます。

北海道農業者の会
事務局 有限会社 西南農場 宮井能雅

HOB | Aのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボ北海道内
Tel&Fax (011) 706-1331
e-mail: mail@hobia.jp